

## 令和5年度 第2回高松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和6年2月15日(木) 午後1時30分～午後2時40分

2 場 所 高松市防災合同庁舎3階 301会議室

3 出席者 高松市長 大西 秀人  
高松市教育委員会教育長 小柳 和代  
高松市教育委員会委員(教育長職務代理者) 吉澤 潔  
高松市教育委員会委員 葛西 優子  
高松市教育委員会委員 小方 朋子  
高松市教育委員会委員 富家 佐也加  
高松市教育委員会委員 和泉 憲

### 4 事務局

#### (教育委員会)

教育局長 河野 佳代  
教育局参事 一原 玄子  
教育局次長総務課長事務取扱 長谷山 隆義  
教育局次長生涯学習課長事務取扱 合田 紀子  
学校教育課長 山地 芳樹  
保健体育課長 岩佐 孝  
総合教育センター所長 宮脇 充広  
総合教育センターICT教育推進室 西村 福和  
教育局総務課学校施設整備室長 川西 正晃  
教育局総務課総務係長 別所 里美  
教育局総務課総務係副主幹 香川 有美子  
教育局総務課総務係主事 道久 拓元

#### (市民政策局)

市民政策局長 蓮井 博美  
市民政策局次長 田中 照敏

#### (創造都市推進局)

創造都市推進局長 中川 昌之  
文化・観光・スポーツ部長文化芸術振興課長事務取扱 次田 吉治  
文化財課長 川畑 聰  
文化財課長補佐 小川 賢

5 傍聴人 3人

6 協議事項

- (1) サンクリスタル高松リニューアル事業の概要と3館連携について
- (2) 次期高松市教育振興基本計画（大綱）（案）について

7 議事の経過

【開会】

【市長挨拶】

○ 市長

それでは、私の方で進行させていただく。

本日は、今年度第2回目の総合教育会議となるが、「サンクリスタル高松リニューアル事業の概要と3館連携について」、「次期高松市教育振興基本計画（大綱）（案）について」の2つの議題について協議を行うこととしている。

まず、協議事項1の「サンクリスタル高松リニューアル事業の概要と3館連携について」、教育局中央図書館から説明をお願いします。

【議題（1）】

○ 事務局（中央図書館館長、文化財課長）

（「サンクリスタル高松リニューアル事業の概要と3館連携について」説明。）

○ 市長

ただ今の説明を受け、御意見、御質問等はあるか。

○ 委員

今回、サンクリスタル高松のリニューアルということでエントランスホールが大きく、現状から変わるとお伺いしている。図書館に求められる役割というのは時代とともに変わっていくことから、入館者数が最近、減少傾向にあるということで、リニューアルを機に普段、本を読まない人を集客できるような魅力あるような場所になってほしいと期待している。

また、市の中心部から離れたところに住んでいる方については、サンクリスタル高松から距離があるため、訪れにくいという課題もあるかと思うが、様々な地域の市民や子どもたちがより多く利用していただけるようにアクセス面の改善について検討していただきたい。

○ 委 員

サンクリスタル学習については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、参加型の学習を中止した間も出前講座等を開催し、工夫されているが、年々、来館者数が減少しているということで、サンクリスタル学習には、より多くの学校が参加してほしい。

また、校外学習等の体験学習を活用し、サンクリスタル学習で学んだことを実際に校外で歴史等を学習するといった、サンクリスタル高松だけで完結しない、様々な場所で学びを続けることができる取組があるとよいと感じた。

○ 事務局（文化財課長）

サンクリスタル学習については、サンクリスタル高松のみで完結するものではなく、例えば、午前にサンクリスタル高松を訪問し、その後、美術館、屋島に行く等の学習方法を行っている。また、希望があれば、それら以外の施設に訪問いただくことは可能である。今後も学校の意見を聞きながら、より充実した、参加しやすいような仕組みを作りたい。

○ 市 長

サンクリスタル学習に参加している学校の割合はどのくらいか。

○ 事務局（文化財課長）

全体の6割から7割程度の学校が参加している。

○ 市 長

その割合を上げるような考えはあるか。

○ 事務局（文化財課長）

不参加の学校の傾向は、1つ目に、サンクリスタル高松の近隣の小学校であることがあげられる。他の学習の時間に既に施設を利用していることや、近くにあるので、普段から利用しやすいこともあり、あえてサンクリスタル学習を希望していないことが要因として考えられる。2つ目としては、他の行事と重なっていること。3つ目としては、新型コロナウイルス感染症が流行して以降、参加を控えている学校があるということである。今後は、例えば、校長会で周知をする等、より一層周知を徹底し、参加校の増加に努める。

○ 委 員

まず、サンクリスタル高松のリニューアルは、市民にどれだけ周知しているか。令和8年度末からサンクリスタル高松が新しくなることで、市民に期待感を抱かせるような周知が必要であると考えます。

次に、サンクリスタル高松は、令和7年から8年までのほぼ2年間、休館となる。サンクリスタル学習は、5、6年生を対象としており、令和6年度に4年生になる児童は、サンクリスタル学習の機会がない。その間の対策やサンクリスタル学習以外の各種イベントの代替をどうするのか。休館中の対策についてお伺いしたい。

○ 事務局（中央図書館長）

休館中の代替については、今後もイベントを通じて、多くの人と子どもとが交流することが重要であると考えことから、出前講座等によりつながりを保ち続けたい。

○ 事務局（文化財課長）

サンクリスタル学習の代替については、例えば、美術館での学習、屋島での学習等に加え、玉藻公園やこれまで行くことがなかった場所を訪問する等、様々な形で休館中であっても魅力ある学習方法を展開したいと考えている。

○ 市長

リニューアルについての周知と期待感を抱かせるような取組についてはいかがか。

○ 事務局（中央図書館長）

リニューアルを周知する時期については、現状、実施設計中であり、工事に着工する時期が確定し次第、その時期と合わせ、市民に休館の時期をお知らせしたいと考えている。また、同時期にリニューアル後の図書館についても周知したいと考えている。

○ 委員

「デジタル化の進展に対応した施設」にリニューアルするとお伺いしたが、デジタル化に対応することは、すぐには困難なため計画的に実行していただきたい。Wi-Fiの使用が可能であること、電子図書を導入、拡張していくこと等、計画的に対応していただきたい。

図書館の魅力として、図書館に行くことで、こどもコーナー等、興味が湧くような工夫が施されていることも魅力の一つであるため、例えば、もし将来、VR、メタバース空間のようなものを利用して、本が並んでいる様子を目視でき、そこから選び、借りることができるようになれば、アクセスしにくいといった課題に貢献できると思う。デジタル化に向けて計画的に取り組んでいただきたい。

○ 事務局（中央図書館長）

御指摘のあったWi-Fi環境の整備は、現在、建物の一部で利用できるものであるが、リニューアル後には、全館で使用できるように考えている。また、次のシステムを導入する際には、タブレット端末の活用も考えていることから、時代に即した、デジタル化に対応した、運用ができるよう取り組みたい。

○ 市 長

令和8年度中にオープンで、まだ、時間があり、その時点での先進的な図書館という考えで、サンクリスタル高松のリニューアルに取り組んでいただきたい。

○ 委 員

市民が使いやすいサンクリスタル高松を目指してリニューアルに取り組んでいただいているが、駐車場の課題やバス路線の課題等についても、交通面で市民が使いやすいサンクリスタル高松を目指していただきたい。

○ 事務局（中央図書館長）

バス路線は、2路線しか、サンクリスタル高松前には停まらず、今後、減便等も危惧しているところである。市長部局にも協力いただき、公共交通機関の利便性高く、活用できる路線を考えていきたい。また、どの地域から来館する市民が多いのかといった調査もしていないため、研究しつつ、多くの方にとって利用しやすい図書館づくりに取り組みたい。

○ 市 長

難しい課題ではあるが、できることを検討していただきたい。

○ 教育長

昨今、子どもの読書離れが課題といわれているが、サンクリスタル高松の役割は、非常に大きいと感じている。

リニューアルにより自動貸出システムが導入され、これまで貸出業務に割いていた時間をレファレンスに充てることができれば、充実したレファレンス機能を望めると思う。学校現場では、ICT 端末が導入され、子どもたちは、端末を用いて調べ学習をし、教科書においては、来年度から新しくなり、QRコードがたくさん掲載され、タブレットをかざすと多くのことが調べられる。一方で、児童生徒にとっては、導かれた内容を調べるのではなく、子どもたちが自分たちで一から調べ学習する機会も子どもの成長にとって重要である。このようなことからリニューアルされたサンクリスタル高松でレファレンスを受け、一から調べる能力の充実ができるのではないかと期待している。

子どもの読書習慣は、親子の読み聞かせから始まると考えられるが、リニューアルにより、子ども、保護者が訪れやすく、貸出機能の充実によって本に親しみやすい環境をつくることで読書活動の充実を図ってまいりたい。

○ 市 長

子どもたちが学習するに当たり、より有効に活用できるよう取り組んでいただきたい。また、図書館司書の役割が十分に果たせるよう、メリットを強調していただきたい。

サンクリスタル高松のリニューアルにおいて、3館連携という点で、現状、「菊池寛記念館」、「歴史資料館」の立地場所等を市民や観光客は、認知しているかという点、十分に認知されていないと思う。その場所に行ったとしても、「菊池寛記念館」、「歴史資料館」がこの建物であるということが、「目立たない、知られていない」という点で、リニューアルでは、ハード面ばかりに注力するのではなく、看板等で上手く特色をPRし、「菊池寛記念館」や「歴史資料館」に行きたいと思う仕組み、仕掛けも含めて考えていただきたい。

3館の連携事業や施設全体を回遊したくなる仕掛けづくりなど、サンクリスタル高松が有する複合施設の強みを生かした取組を行い、他課や他施設と連携し、子どもから大人まで幅広い世代に選ばれ、利用してもらえよう、地域の交流の場として定着させるための取組を進めていただきたい。

施設を利用するに当たっては、利用者の交通アクセスの向上が課題となるが、今後、市長部局のセクションと連携して、市長部局においても考えるとともに、解決に向けての提案をいただければと思う。

また、本市の次期総合計画においても、シビックプライドの醸成については力を入れているところであり、このリニューアルにより、市民にとって愛着が持てる施設となり、観光客にとっても魅力的な施設となるよう、さらにアイデアを出し合い、「市民に役立ち愛され地域に貢献するサンクリスタル高松」として、来館者32万人を目指していただきたいと思う。

また、今回のリニューアルにおいて多くの人から意見をいただいているが、より大々的に「サンクリスタル高松がリニューアルする。」と謳った上で、意見をいただくことも必要である。形式的にパブリックコメントを求めるのではなく、実際、図書館に愛着を持っている市民に呼び掛けるように御意見等をいただく機会を作っていただきたい。

他になければ、協議事項2の「次期高松市教育振興基本計画（大綱）（案）について」に移らせていただく。教育局総務課から説明をお願いします。

#### 【議題（2）】

- 事務局（教育局総務課長）  
（「次期高松市教育振興基本計画（大綱）（案）について」説明。）
  
- 市長  
ただ今、次期高松市教育振興基本計画（大綱）（案）について、大綱も兼ねる次期高松市教育振興基本計画の内容や、パブリックコメントの結果等の説明があったが、御意見等はあるか。
  
- 委員  
シビックプライドについて、私は、昨年10月から教育委員を拝任しているが、その時

期まで、シビックプライドという言葉を知りていなかった。シビックプライドという言葉があまり浸透しておらず、市民も同様に知りている方は多くないと思う。大人から子どもへ発信しながら、シビックプライドの醸成を進めていただきたい。

PTA やおやじの会との交流がシビックプライドの醸成では重要であるということであるが、子ども会も地域とつながることが非常に多い。子ども会を活用し、子どもと大人が地域でつながる体験活動等からもシビックプライドの醸成について考えていただきたい。

高松第一高等学校の生徒との意見交換会についても、中学生や小学生の意見も聞きながら、シビックプライドの醸成について教育委員会で考えていただきたい。

#### ○ 委員

新しい項目として、施策の基本方向「多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実」について特別支援、いじめ、不登校への対応があるが、とても重要な項目である。全国で不登校の児童生徒が約30万人、特別支援では、通級による指導を受ける子どもが18万人いる世の中である。イメージでは、少数の限られた子どもの話に聞こえるが、実は、かなり大きな話で、多様な子どもたちに対応していく教育の重要な柱であると思う。急に何か対策ができるわけではないが、教員の資質能力の向上のために研修の機会を確保していただきたい。また、身近なところでは、支援学級に電子黒板があったらよいと思う。少しずつであっても、少なくない多様な教育ニーズを持った子どもたちへの対応をお願いしたい。

#### ○ 委員

この大綱は、今後8年間、令和13年までの期間のものであるが、第2期計画の平成28年から令和5年までを振り返るとコロナ禍による感染症への対応や最近では、能登半島地震のような自然災害への対応が今後の8年間で重要であると思う。

この大綱は、それに対するBCP的な考え方、視点があまり見えてこない。8年間で、どこで何をどうするのかといった工程も見えず、締め切り等を設けた指標が多いので、もう少し具体的な観点があるとよいと感じた。

#### ○ 委員

学校・家庭・地域の連携・協働の推進について、「地域とともにある学校づくりの推進」、「学校を核とした地域づくりの推進」という点で新しい取組が始まることになっている。先日、参加したPTAとの意見交換会では、学校運営協議会が令和5年度から始まったことをPTA会長等は、知りていたが、その他の一般の会員には、浸透していなかった。

教育委員会で開催された、コミュニティスクール、地域学校協働活動の研修会では、学校関係者、地域の方が参加されており、学校では、地域との関わりが増えることで、教員の負担が増えるのではないかという不安や、地域では、協議会委員の間でもコミュニティスクールの理解が進んでいないこと等、課題があると感じた。

今後、コミュニティスクールの取組を周知し、子どもを核として、地域・学校・保護者が繋がることで、地域再生の1つの鍵になると思う。

子どもは、シビックプライドの醸成。学校は、働き方改革。地域は、いきがづくり、保護者とつながることでの人材育成。保護者は、地域への理解を深める、困った時に相談できる場所をつくるというような、全体がWin-Winの関係になる取組にしていきたい。

#### ○ 委員

説明の中で、「計画等を策定しても内容（市の取組等）が伝わっていないことがある」について、まさにそのとおりであると思う。基本計画を策定しても、計画の存在自体を知らない方がほとんどであると思う。今後の予定として、計画の内容をまとめた「概要版」と計画の周知用動画を作成するとお伺いしたので、PTA 総会で流すことや子どもたちにタブレットを通して閲覧していただくような取組も大切であると思う。周知をすることで、取組を実施できているのかのモニタリングに繋がるので、ぜひ実施してほしい。

また、前回の概要は数ページあったと思うが、配られても読む人は少ないと思う。裏表のパンフレットや見開きで読むことができるような、市民の方や保護者、子どもが簡単に読むことができる、概要版を検討いただきたい。

#### ○ 教育長

先ほどの御意見にもあったように、これまでは、策定後の周知等の取組が十分ではなかったと理解している。計画ができた後、どのように家庭や地域に高松市の目指す教育を示すかに注力したい。例えば、計画の基本的な考え方については、令和4年、5年において、校長会がある度にお伝えしてきたところである。教育委員会が示すベクトルと同じ方向で学校が子どもの教育に当たらなければならない。学校、家庭、地域の方々はこの計画を進めていくことに力を入れたい。

本市の課題と新しい視点では、今回の計画の大きな柱である3つの項目を設けているが、社会全体で子どもを育てていく中で、教育委員会のみで完結する子どもの教育ではなく、市長部局の各課のお力添えもいただきながら、連携、協働して子どもたちを育てていきたいので今後も市長部局の御協力をお願いしたい。

#### ○ 市長

教育の問題は教育委員会だけで解決するものではなくて、地域、家庭等、様々な兼ね合いを考慮して、教育を考える必要がある。

高松市では、総合計画を今年の4月から新しく開始するが、次期総合計画の目指すべき都市像は、「人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松」であり、この都市像を目指す上で、子どもたちがいかに成長していくのか「教育」の役割は非常に大きいと考えている。本市の教育に関する「大綱」である次期高松市教育振興基本計画に掲げている「ふ



るさとの未来を支える教育の推進」のうち、「シビックプライドを育む教育の推進」、「グローバル人材の育成」は、まちづくりとしても高松市全体で取り組むべき非常に重要な課題である。教育委員会が取り組んでいる、「誰一人取り残さず一人ひとりが輝く教育」、「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らして良かったと思える教育」の視点を重点としつつ、計画の施策を遂行していただきたい。教育委員会での次期高松市教育振興基本計画は、高松市の総合計画と同等レベルの内容として充実できるよう、市民が計画を知り、計画に協力できるよう、市長部局としてもPRし、施策の充実に努めたい。

○ 市長

他に何か御意見等があれば、発言をお願いします。

不登校問題、特別支援教育が非常に大きな課題として全国的に取り上げられている。次期高松市教育振興基本計画内では不登校の問題等についてどのような対策をとるよう考えているのか教えていただきたい。

○ 事務局（総合教育センター所長）

不登校の問題については、最重要課題として考えており、「Q&A」やマニュアルづくりの見直しを行っているほか、学校での新たな不登校を生まない体制づくり等、学校訪問等を含めて指導に努めたい。

また、特別支援教育や不登校対策については、基本研修の中で必ず位置付けるようにし、教員が理解を深め、学校の子どもたちに対応できるよう努めたい。

○ 教育長

校長会を実施する中で、今年度の4月に小・中学校の校長に高松市の喫緊の課題は、「不登校対策」と「特別支援教育の充実」であると伝えている。

不登校対策については、各学校で様々な取組をしており、良い取組、「不登校を生まない学校づくり」や「不登校になった場合の対応」についてを各学校から一事例ずつ実践事例を提出していただき、校長会で協議した。

特別支援教育については、これまで以上に、教員の研修を充実していく必要があるというところで、今年度では、夏休み中に多くの教員研修を実施した。

教育委員会ができること、学校ができることを確認しながら、今後も取り組みたい。

○ 市長

不登校の課題については、教育委員会や学校だけで解決できるものではない。地域からの協力等、幅広く、可能な範囲でオープンにしなが、地域の協力を得て、解決いただきたい。それでは進行を事務局にお返す。

○ 事務局（教育局長）

教育委員の皆様方には、総合教育会議に御協力いただいたこと心よりお礼申し上げます。次回、令和6年度第1回高松市総合教育会議の開催については、7月頃を予定している。日程、議題等については別途調整させていただくので、よろしくお願い申し上げます。今後とも、御協力賜るようお願い申し上げます、閉会とする。